

## 達人リコメンドの四国～ごっくん馬路村

### 1. 高知県

昭和の話、スタンプラリー気分始めたお遍路旅。順打ち、逆打ちなんて言葉も知らず出張の寄り道とか、休日の時間つぶしドライブとかで地図と納経帳持って、知らない道を走っていました。よそ者を嫌うのに新しい物好きの香川県民、テレビのネットが同じだから大阪が好き徳島県民、香川に対抗意識を燃やす愛媛県民、飲んだら友達・ハチキンいごっそう高知県民。幡多と高知は違うとか、西讃と一緒にされるのは嫌とか、批判もあるとは思いますが、異郷の地に飛び込んだ大阪のボンクラのボンボンが感じたことですから大目に見てやって下さい。けれども、お遍路旅を続ける間に気付いたことは、目的地への道標にも県民性が現れることで、他県と比べて高知県の道案内が優れていました。札所だけでなく、高知県の観光地への道案内は隣で飲んでるおじさんみたく親切で、元気に行き先を教えてください。当時から国民休暇県というスローガンで観光に力を入れ続け、今も「県庁おもてなし課」なる映画同様、観光客を受け入れる体制が整っています。



現在の観光に関するキーワードは、「龍馬」と「四万十川」が広く認知されていますが、東部地区から次の言葉を出すとすれば、「ジオパーク」「アンパンマン」あたりが候補にあがると思いますが、柚子加工品で町おこしする馬路村の代表的なドリンク「ごっくん馬路村」または「ごっくん」あたりで観光客を呼び込むのはいかがなものでしょうか。

### 2. 馬路村



今回の旅の最終到達地は、馬路村。目的は、何もしないで自然に抱かれるというホンマモンの贅沢です。ゆっくりのんびり、うまじ温泉のお湯につかって、安田川の流れる音を聞きながら静かに過ごす。食事は、安田川の恵みのアメゴに、特産品の柚子、シイタケ、山菜の天麩羅という定番メニューに土佐ジローの塩焼きを追加。柚子酒を注文して、宿泊もロフトのある洋室です。朝日と鳥のさえずりで、目覚め、川の流れる音を聞いてまどろむ。ベランダに出て、少し読書をして、身体が冷えたら温泉に。



馬路村の自然が人をおもてなし。そんな自然で生活してきた人が、外から来た人をおもてなし。観光も、魚梁瀬森林鉄道に水の重さを利用した無動力のケーブルカーのインクライン。ゆずの森という馬路村農協のゆず製品加工工場。ここで、ごっくん馬路村とスーパーごっくんがつくれよう。自然環境にもやさしい工場ながやと。工場見学もできると。無料で見学できるし、ドリンクは自由にごっくんできるし、女性はお土産まで貰えるし、柚子製品からドリンク、スギ加工品まで購入できて宅配も可能です。





村の総合案内所で、どこを観光すれば良いか聞くと、魚梁瀬と周辺の紹介と川遊びを勧めてくれました。この地を訪れたらまずはここでガイドマップをもらってから、天国に最も近い村に入場しましょう。



ということで、ごっくんで村おこしに成功した馬路村を、勝手に達人リコメンドの天国と認定したいと思います。



### 3、モネの庭・マルモッタン

今回、もう一つ天国に近い場所を訪問しました。2haの土地に、55000本の植物を育てている庭園。北川村の山を背景にフランスの印象派画家クロード・モネ(1840~1926)の世界が広がる。フランス・ジヴェルニーにある「モネの庭」の管理責任者ジルベール・ヴァエ氏の監修で、その姿を忠実に再現した。スイレンの花が咲く「水の庭」、色とりど

りの季節の花がいっぱいに咲く「花の庭」など、庭内を散策していくとモネの描く風景が次々と現れる。(四国観光検定公式テキストブック)



ここも、ゆっくりと佇んでいたい場所です。北川村も隣の馬路村と合わせて達人リコメンドの天国と勝手に認定すると共に、皆様のご来場を祈念いたします。





平成26年5月9日記

旅は平成26年5月2日～6日

Top  
[トップ](#)  
[↑](#)

Back  
[戻る](#)



[達人リコメンドの四国～おいしい高知](#)